

「今だけ限定」で無限の幸せ



ばく せらん
朴 世蘭

出身 韓国

職業等 筑波大学

在日期間 10 ヶ月

皆さんは期間限定についてどう思いますか。

去年の春、日本に来たばかりのときに、外国人としての私の目には、期間限定というものがとてもくだらないもののように見えました。今だけという戦術にだまされているな、実際は大したことないのにと感じていました。

しかし、そう考えていた私が間違いでした。

私の家の近くにたい焼き屋さんがあります。そこには、定番メニューとともに1カ月間だけの期間限定のたい焼きが登場します。例えば、8月は巨峰、9月は栗、10月はリンゴなど、その月を代表する味です。

9月のある日、私は好奇心でその行列に入ってみました。そして、一口、たい焼きを食べた瞬間、期間限定のとりこになってしまったのです。その日から私は、自分がかたらないと思っていた行列の中の一員になってしまいました。期間限定という4文字を見ると、今すぐ手に入れたい、早く買わなきゃという思いでいっぱいになります。これは期間限定症候群と言っても過言ではありません。

今は2月、焼き芋の商品を食べないと2月を全く楽しめていない。行列に並んでいるときから手に入れたたい焼きを完食する最後のその瞬間まで、私は世界一幸せな2月の女になります。

私にとって、これは単純な魚の形をしている食べものではありません。冬そのものです。熱々のおでんを食べて、デザートでいちご大福を食べて、冬限定のコアラのマーチを買って帰る日の気分は、ビルゲイツよりも、世界のすべてを手に入れた気分になるのは私だけでしょうか。

たった1,000円で冬を手に入れられるのは、日本だけで楽しめる小さな幸せではないかなと思います。

さらに、日本は期間限定のない時期がありません。日本の1年は、期間限定というさまざまな何十個ものブロックがぎっしり並んでいるようです。

10月31日、大阪旅行のため、夜行バスに乗って見た東京の街のあちこちはハロウィンのかぼちゃが飾られていました。しかし、11月1日、大阪に着いた私はびっくりしました。前日のバスに乗ったとき、東京はハロウィン一色でしたが、バスから降りると大阪はすっかりクリスマス一色になっていました。あれ、ちょっと待って、まだ11月1日なのに。もしかすると世界で一番早くクリスマスが来る国は日本かもしれません。

数え切れないほど多い期間限定とイベントがあるということは、1年のどの季節も意味を持っているということではないでしょうか。

期間限定商品などがあまりない韓国では、季節が変わるたびに寂しくなりましたが、日本では秋や冬になっても全然寂しくありません。今の時期をめいっぱい楽しんでいるその間にも、また来年の春、夏のための楽しい準備が進んでいるからです。

毎月が面白い期間限定であふれている国、1年中小さい楽しみがあり、退屈しない国、その小さい変化をたっぷり楽しめる国、日本。

水のようにただ過ぎてしまうかもしれない1年という時間を感謝し、楽しむさまざまな工夫は、目の前にある幸せを見逃してしまうかもしれない現代人にとって一番必要な姿勢ではないでしょうか。

日本での生活は、私に周りにある素朴な小さな幸せを教えてくださいました。

2009年の日本は、私にとって1年間という期間限定です。また、私も日本では1年間だけの期間限定の存在です。しかし、一緒にその瞬間を楽しんだ人たちとのあの幸せな思い出は、期間無限定の幸せとして、また、日常に飽きてしまうころ、私を一番元気にさせる薬になると思います。

また、私も期間限定の思い出と一緒に重ねた人たちに、その季節ごとに、1年中、思い出してもらえる人になれたらいいなと思います。

お聞きくださいましてありがとうございます。